

入試教科としての「情報」を見据えた
定期考査の実践と考察

愛知県立瀬戸北総合高等学校

田中 健

本実践の背景

～ 2019

大学入試センター試験

情報関係基礎

各大学の二次試験



2020 ～

学びの基礎診断

大学入学共通テスト

各大学の二次試験

過去の実践

2013年(H25) 京都大会

普通科高校での専門教科「情報」授業実践part2～センター情報関係基礎を武器に～

愛知県立安城南高等学校 田中 健 [06-4-6.pdf](#) 発表スライド [06-4-6s.pdf](#)

(要旨) 本校愛知県立安城南高等学校では、普通科でありながら専門教科「情報」を3年間で12単位履修する、情報活用コースというコースを展開している。大学進学を主な進路先として見据える生徒に対し、どのようにして専門教科「情報」と向き合わせれば良いか日々腐心を重ねている。今回は、数学Bを履修しないカリキュラムで学ぶ本校生徒が、如何に「情報関係基礎」を武器としてセンター試験を戦うか、その授業実践と成果を報告する。

2014年(H26) 埼玉大会

「情報」を大学受験教科にするために高校側ができること

愛知県立瀬戸北総合高等学校 田中 健 [07-3-6.pdf](#) 発表スライド：[07-3-6s.pdf](#)

(要旨) 情報は受験教科ではない——1・2年次に2単位、情報が息抜き教科的な位置付けになっている現状、無理からぬことであろう。その他にも、教科「情報」が一般的な受験教科になるため障害は多々見受けられる。しかし、情報学を志す者、情報の素養を持つ者、高校3年間情報を学び続けた者が、受験において蔑ろにされるのは教育的とはいえない。そこで、情報入試を一般化するために、高校の現場レベルでできることを考えてみたい。

設問の種類（大分類）

1. 多肢選択式
2. 空欄補充式
3. 一問一答式
4. 自由解答式

高大接続改革を受けて

作問・設題に求められる根幹

設問に配されたヒントを拾わせる



解答に至る過程を意識させる



解答者自身のことばで表現させる

創造・自由？



一般教養・教科横断的内容



日常生活との関連

実践例題

① 問題文連動型記述問題

Q. (モールス信号において)利用することが多い文字に短い符号が割り当てられている理由を簡潔に20字程度で答えよ

A. 文が短くなる確率を高め通信の効率化を図るため

× 文章が短くなるから ・ 短縮するため ・ 便利 ...etc

実践例題

② 問題文連動型計算問題

Q. 配付資料3枚目をご覧ください
cf.4枚目裏面

A. $44100 \text{ [/s]} \times 16 \text{ [b]} \times 2 \times 66 \text{ m} \ 9 \text{ s}$

\Rightarrow 約 700 MB

実践例題

③ 最適解算出問題(図表読取型)

Q. 配付資料5枚目裏面をご覧ください

A. データ量を全て計算すると、約2.26GB

⇒ ドコモの3GBプラン

今後の展望

2024年度からの
大学入学共通テスト

「情報Ⅰ」・・・？

今後の展望

高校生の日常生活との関連をもたせ

一般教養・教科横断的内容を含んだ

設問ごとに掘り下げ深化させていく

解答者自身のことばで表現させる

出題方式

おわりに

集合知のパワー

みなんで問題をシェアしませんか？